

宮城県師会 公益活動報告

5月9日（日）（社）宮城県鍼灸師会では第20回仙台国際ハーフマラソンの救護テントを設置した。第1回大会から継続しており、鍼灸の理解と啓蒙のため選手には鍼灸をファーストチョイスにしてもらっている。今回のスタッフは会員9名、会員外8名。ベッド数8台。訪れた選手は35名で例年より10名ほど少なかった。筋痙攣を起した選手が運ばれた医師会救護テントへの出張が皮切となったが、ほとんどはレース後の疲労回復が主である。大会終了後の交流会で、仙台市長からは「選手に喜んでいただけて助かっています」、また、マラソン解説者の増田明美氏からは「（はりきゅうは）大会直前のコンデショニングは他にない良さがあります。普段の疲労回復にはとても良いですね」とのコメントをいただいた。

今年度から宮鍼会では救護ボランティアへの参加が財団生涯研修のポイントに加算されるようカリキュラムを組んでいる。大会終了後に（社）日本鍼灸師会小松学術局長を招いてのその開講式を行った。

（文責 賀川秀眞）

活動状況風景①



活動狀況風景一②



活動狀況風景一③



活動狀況風景一④

